



田村会長

## エコレザー座談会

**田村 繁幸氏**

(株)ティックワールド代表取締役会長

**安藤 真弓氏**

(株)ティックワールド取締役社長

**吉村 圭司氏**

(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

**稲次 俊敬氏**

(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

# ソフトなベジタブルレザーを使い、 消費者目線で足と 人に優しい婦人靴をつくる

お客様の声から、  
ソフトな革の靴を作り始める

**吉村** 本日は佐賀市の婦人靴メーカー・ティックワールド様に伺い、田村繁幸会長と安藤真弓社長にお話をお聞きします。本社兼工場は、佐賀駅から車で15分ほどの周りを林に囲まれた静かな環境の中にあります。靴小売店「JUMBO(ジャンボ)」も工場に併設され、消費者と直接コミュニケーションを取られているメーカー様です。まずは、靴づくりを始められたきっかけなどからお聞きかせください。

**田村** 私が靴業界に入ったのは、40歳のころでした。ヨーロッパに靴の視察に行く機会があり、ローマの小さな靴

店のショーウィンドーに置かれていた一枚の革に、カルチャー・ショックを受けました。遠目からでもわかる質感の良さがあり、とても柔らかそうな革でした。どうしても手に入れたくなり、売り物ではないのに無理にお願いして買ってきました。それが私の革との出会いでした。



左端にショップを併設した工場

持ち帰った革を大手のタンナーさんに見せ、こんな革で靴を作りたいと話しました。ロットの問題などがあり、最終的に姫路のタンナー・三昌さんが作ってくれることになりました。そこでは、革の勉強もさせていただきました。

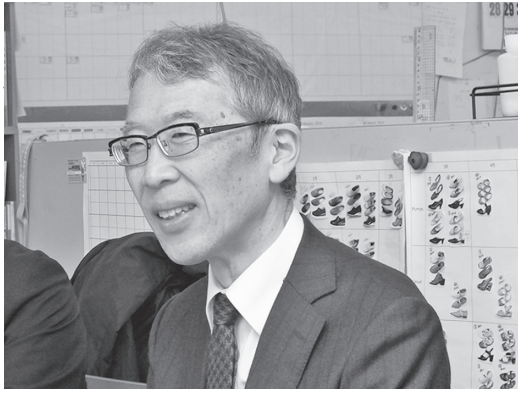
**製品メーカーとして、タンナーさんに「こういう靴を作りたい」というイメージを伝え、タンナーさんも、もっと軟らかい革を作るにはこうすればいいと応えてくれたのです。このような細かな対応のおかげで、どこにもない、存在感がある靴を作ることができ、今日まで続けられて来られたと思います。**

**吉村** 小売店を始めた経緯をお聞かせください。

### 日本エコレザーの6つの条件



- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅牢度が基準値以上



吉村氏

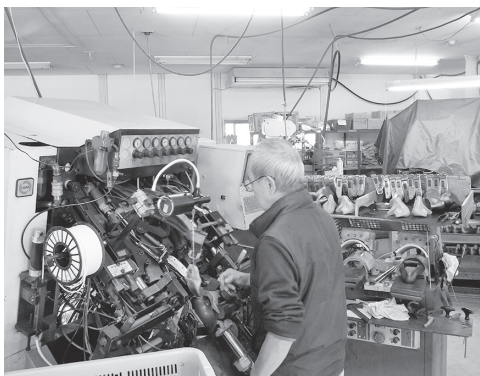
**安藤** 靴の製造過程では、革にキズがあるものや美観が左右微妙に違っているものなど、どうしても不良品が発生します。そんな靴を、当初は従業員の福利厚生の一環として、工場の横で安く販売していました。これが□□ミで広がり、一般の女性も工場に來られるようになって、正規品も小売するようになりました。

それまで私たちは、話をするのは問屋さんだけで、消費者の声を聞くことはありませんでした。しかし、工場の隣の店舗に來られるお客様とおしゃべりをして、「ここが痛い」「靴のこの部分が当たる」「もっと革が柔らかいほうがいい」などお客様の苦情や要望をダイレクトに聞けるようになりました。その経験から今日のような軟らかい革で足に優しい靴を作るようになりました。

### タンナーの協力を得て、真似のできない靴を開発

**吉村** ソフトな革を使って靴を作ることは難しいと思いますが？

**田村** 当社は、ぬくもりのあるソフトタッチな革を使って、足を包み込むような履き心地を求めています。



工場内の様子

そこで、タンナーの三昌さんには、洋服向けのガジェットレザーで靴が作れないかと相談しました。当社らしさを表現するために、ベジタブル（植物タンニン）なめしで焦がしのある、軟らかい革としました。ほかに三昌さんと話し合い、手袋用のラムスキンで靴を作ったこともあります。

革を発注するときにはお願いしていることは、「完成した革を納めないで下さい」ということです。タンナーさんには仕上げを10のうち8くらいで止めてもらっています。残りの2割を、我々が靴に合わせて仕上げをすることで、商品の付加価値が高まり、当社らしい手作り感を表現できます。

**吉村** 革をつくるタンナーさんも大変ですし、大変手間の掛かる仕事ですね。

**田村** そうすることで、他社では簡単には真似のできない靴になります。ある同業メーカーさんが、どうしたらこういう靴が作れるのか教えて欲しい、と言われたことがありました。

そこで、本底と中底を差し上げました。でも、でき上がった靴は、我々の靴とは同じものにはなりませんでした。そこに、当社のモノ作りの隠し味があるわけです。

### 優しさに、“安心・安全”を加えた靴を

**吉村** ソフトな履き心地と同時に、革の風合いの良さが受け入れられているのですかね？

**安藤** お店で一番売れている商品は、ナチュラルな雰囲気と軟らかさに特徴のある靴です。この靴は当社のヒット商品の第1号ですが、いまだに年間トップの販売実績を誇る靴になっています。小売価格で1万5000円前後なので、一般の靴より少々高いかと思いますが、お客様には高く評価していただいています。

直営小売店は現在13店舗あり、それぞれ売場には日記を備え付けています。お客様の生の声を毎日記録



ソフトな革を使ったベストセラー商品



稲次氏

し、本社に報告するためです。  
お客様の目線で靴作りをするために、率直な感想や意見を大切にしています。どんなにデザインの良い靴でも、お客様が履きにくいと思われたら、二度と買ってはもらえません。このように、私たちはお客様に育てていただいた靴メーカーといつても過言ではありません。また、早いうちから女性スタッフによる企画を積極的に取り入れてきたこともよかったですと思っています。

**田村** 売場で革の話をする際には、植物タンニンなめしという言葉は分かりにくいので、ベジタブルなめしという言葉を使って説明しています。

会社では“人に優しく、足に優しく”というスローガンを掲げています。ソフトなベジタブルなめしの革を使えば、履いた瞬間に優しさが感じ

られます。この革は廃棄したときに土に還りやすいものです。このように、当社は地球に優しい靴作りを目指しているのです。

**稲次** 軟らかい革を使い、多くの顧客から支持されていますが、加えて、我々日本皮革技術協会が推進している「日本エコレザー」の使用もご検討いただけないでしょうか？

エコという言葉がいろいろな意味に解釈され、いろんな場面で使われていますが、「日本エコレザー」については、植物タンニンなめしの革のみがイコール、エコレザーとは限定していません。たとえば、クロムなめしの革でも基準をクリアすれば、十分に対応することが可能で、エコレザーの認定取得ができます。認定制度にあるすべての基準を満たした革、すなわち、有害化学物質検査済みの革は、消費者に対しても安心・安全な革であり、それが「日本エコレザー」なのです。

小売店「ジャンボ」には、健康に対する意識が高いお客様が多いかと思えます。スローガンにある“人に優しく、足に優しく”に、“安心・安全”ということを加えれば、さらに訴求力が増すと思いますがいかがでしょうか。

**吉村** 現在、取引をされている国内タンナーさんであれば、排水や廃棄物の処理など環境にも配慮した工場ですから、一つの基準は既にクリアしています。また、御社の取引先のタンナーさんは、これまでに多くの革で「日本エコレザー」の認定を取得しています。相談されれば問題なく認定取得はできるでしょう。

**田村** 日本エコレザー基準の認定を取得する場合、費用はどのくらい掛かりますか？

**吉村** 材料である革の試験が一つの革で10万〜12万円ほど掛かります。しかし、このエコレザー事業については、経済産業省、(一社)日本皮革産業連合会も推進のためにバックアップしておりますので、検査費用に対してはいろいろな補助制度があります。これらを有効に利用されることをお勧めします。また、認定取得のための申請には、一定の様式に従った申請書をご用意いただくだけで、費用は一切かかりません。

特に、初めて認定取得に挑戦される企業様については、当協会としてもできるだけお手伝いさせていただきます。



佐賀駅の駅ビル内にある「JUMBO」



安藤社長

## エコレザーで 企業の社会的責任を果たす

**田村** 「日本エコレザー」認定の革を使っていることを表示する、ラベルやパンフレットはあるのですか？

**稲次** 申請が通れば、認定番号を入れた日本エコレザー認定ラベルを表示することができます。ラベルの裏にはトレサビリティ(製造元の追跡)が取れるようになっており、生産メーカーまで分かります。一般消費者向けのパンフレットもあり、それを靴箱に入れてもいいですね。

日本エコレザーのマークを取得すれば、目に見える形で企業の社会的責任を果たしていることがわかります。同時に、日本製の革を使っている

こともアピールでき、インバウンド需要も期待できます。

ランドセルや新生児向けのファーストシューズなどは、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんのために買われます。この場合、多少高くても、安心・安全をアピールするマークが付いているものを選ばれるようです。介護用、医療用に使われるムートンのシーツも、この認定取得が信頼性を高めていると聞いています。

**安藤** お客様に対して、安心・安全を具体的に伝えられるということは、売場にとっては心強いことかもしれませんね。

**吉村** 日本エコレザーの認定を取得した革を使えば、安心・安全を謳えま

す。今、お使いになっている革が危ないということではなく、日本エコレザーだと「より安全・安心ですよ」というように説明してください。認定を取得することで、ほかのものが売れなくなるわけはありません。

**稲次** エコレザーを使った製品では、衣料のほか、カバンや財布があります。靴はまだまだ進んでいません。バッグ屋さんの中には、売場の一角にエコレザーのコーナーを設けたところ、目新しさもあり、このコーナーを目当てにお客様が来店されている例もあります。お客様の目線で考えていらっしゃるティックワールドさんには、婦人靴で日本エコレザーを採用するメーカーの先駆けとなっていただければ、と期待しています。